

令和6年度 実績報告

【 菊かおる園 地域包括支援センター 】

【令和6年度 実績報告】

・高齢者総合相談センターの役割の周知や必要な情報を幅広い方々に届けることについては、区民ひろば・町会・高齢者クラブでの出張相談・出前講座（計41回）、町会や高齢者クラブでの出張相談・出前講座（5回）、認知症カフェへの参加（21回）などを実施し、年間を通して力を入れてきた。また第2層生活支援コーディネーターと一緒に、役立つ情報を載せた「ささえ合い通信」を年5回発行した。出張相談などで配布し、町会での配布にも繋がった。周知先が固定化しつつあったところ、新しい住民団体や住民層に情報を届けることができた。

・地域のケアマネ向け研修（テーマ：チームアプローチ、BCP）を2回行い、またケアマネ地区懇談会も2度行い、ケアマネの資質向上・ケアマネジメンの課題解決に向けた取り組みを行うことができた。

・アウトリーチ対象者を全員訪問・現状確認し、対象でなくなった方をリストより除外し、またR6年度高齢者実態調査にてアウトリーチ対象と判定された24件を加え、アウトリーチ名簿を整理・最新化することができた。次年度の効率的アウトリーチ活動のための基盤ができた。また、見守り支援事業担当が介護サービスや地域資源に繋げたケース・三職種と協働したケースが、7ケースあり、自ら支援に繋がる力が弱い方々への支援も継続的にできている。

・介護予防の推進においては、短期集中訪問事業は34件・短期集中通所事業は4件利用し、利用者の自立支援・重度化防止を図っている。また、つながるサロン6か所で出前講座を行い、顔の見える関係づくりを図っている。

・センター独自の事業として行っているぬいものクラブ（認知症のある方の社会参加・生きがい支援の場。月2回）とホッと菊食堂（孤食や低栄養予防・高齢者の居場所づくり。月1回）の実施を継続できた。

【実績への自己評価】

○力を入れた点

認知症のある方の社会参加・地域貢献・居場所づくりの推進や、第2層コーディネーターや民生委員・地域住民地域の関係機関との連携・協働を特に推し進めた。

・ぬいものクラブの開催継続と、区民ひろば文化祭での発表と作品の無料配布をし、認知症になっても社会貢献ができ、生きがい就労（元気あとおし事業登録）となる場を、提供することができた。

・第2層コーディネーターと協力し、ホッと菊食堂の運営を地域ボランティアに移行することができた。ホッと菊食堂が住民の活躍の場でもあり、高齢者の居場所・交流の場でもあり、同日に茜の里のパン販売にも来ていただいております、地域住民と障害者を結ぶ場にもなっていて、様々な意味をもつ事業となっている。

○目標までに至らなかった点

・計画段階では認知症サポーター養成講座を年2回の予定であったが、1回（自主開催）のみの開催となった。来年は、計画通り実施できるよう、計画的に行っていきたい。

・介護者カフェについては、運営に協力し月1回の開催を維持できた。しかし主催者の事情により、継続することが難しくなった。そのため、計画段階で予定していたセミナーや勉強会は、実施することができなかった。次年度は介護者カフェの在り方を検討し、別の形で新たに始めることとなった。

令和7年度 事業計画

【 菊かおる園 地域包括支援センター 】

重点目標

- ① 認知症になっても、安心して自分らしく暮らせる地域づくり、また認知症介護を継続できる地域づくりをめざす。
- ② 介護予防に寄与する、総合事業の推進・高齢者の社会参加の推進・住民主体の通いの場の拡大を図れるように、関係機関や地域住民と連携し協働していく。

【計画の概要】

- ・高齢者総合相談センターの相談支援の充実については、引き続き出張相談等でセンターの役割の周知に努め、多職種連携の会や地区懇談会にて関係機関との連携を強化していく。また、障害支援や引きこもり支援等、重層的な支援が必要な世帯を把握し、関係機関と情報共有しながら、必要な支援に繋がれるよう動いていく。
- ・介護支援専門員の資質向上に向けた地域ケア会議・研修の実施についても、今年度も昨年と同様に、それぞれ2回実施していく。また困難性の高いケース対応においては、個別ケア会議の開催や地域ケアGの相談三事業を活用し、相談支援の充実を図っていく。
- ・認知症になっても安心して暮らせる体制整備については、認知症サポーター養成講座の実施のほかに、今年度は認知症支援講座も開催予定。また、圏域内で本人ミーティングの場を立ち上げる予定。昨年度末に主催者の事情で終了した介護者カフェについては、第2層コーディネーターと協力し、今年度は形を変えて再開することに向けて検討し、6月より介護者カフェうえるかむとして新たな形で再開予定である。ご本人・介護者それぞれのための場の支援を推し進めていきたい。また、昨年度と同様に、オレンジドクターとの連携を強化していきたい。
- ・総合事業の推進については、今年の10月に通所型サービスについての変更が予定されている。A8サービスが不足している地域ではあるが、介護予防推進のために、短期集中訪問型・通所型サービスの活用、つながるサロンとの連携強化、初回アセスメント強化事業等の活用を推進していきたい。
- ・高齢者の社会参加と通いの場の拡大については、つながるサロンとの連携強化に努めていくとともに、これまで行ってきたぬいものクラブ・元気あとおし事業の利用・ホッと菊食堂の実施を継続していく。新規事業として、認知症・介護予防や施設と地域とのつながり・地域住民から寄付された古布の再利用を目的としたサロン「巣鴨アップサイクル友達100人プロジェクト」を2層コーディネーターと協力して立ち上げる予定。
- ・見守り支援事業担当による専門的な見守りと地域の支え合いの仕組みづくりについては、当圏域は民生委員の大幅な欠員（10名）があるため、よりいっそうの町会・高齢者クラブ・関係機関との連携を強化していく。また、第2層コーディネーターやCSWと地域情報や課題を共有し、地域の強みを活かした活動の提案を行い実現に向けて取り組んでいきたい。

令和6年度 実績報告

【 東部地域包括支援センター 】

【令和6年度 実績報告】

- ① 防災をテーマとして、地区懇談会にて“災害時要援護者名簿の活用”方法について町会長・民生児童委員・地域の医療介護事業所の方達と今後の取り組みや課題について共有した。
- ② 東部医療介護事業所学習交流会（通称：ととか）にて区民向け学習交流会として医療・介護事業所・包括が連携し“嚙下”をテーマに寸劇を通してわかりやすく医療や介護の実際の支援内容を説明し、学びの機会を提供することが出来た。
- ③ 虐待通報が急増しており、虐待対応を他機関との連携を意識し対応を行った。また必要な方を成年後見制度に随時繋げた。
- ④ 総合事業の利用促進と事業の理解を深めるために、地域のケアマネジャー向けに勉強会を行った。



【実績への自己評価】

○力を入れた点

- ① ケアマネジャー地区懇談会でも防災について～ケアマネジャーとしてやるべきことは何か～をテーマにケアマネジャー個人や事業所としての取り組みの共有や課題について検討を行い、今後のケアマネジャーの皆様の業務の中で防災への取り組みに繋がる支援を行った。
- ② ととかの区民参加については、30名弱と課題が残ったが寸劇の他、医師・看護師・薬剤師・ケアマネジャー・訪問介護事業所等の相談コーナーや訪問マッサージの体験、訪問入浴の実演などを行い、区民の方々へ医療介護の実際について様々な展示等を通して伝えることができた。

○目標までに至らなかった点

・第2層コーディネーターの方と定期的に行われた定例会を通して主に連携・協議を行うことが出来たが、実際のサロン立ち上げや既存のつながるサロンへのフォローについての連携という点については、十分に行うことができなかったため、来年度は密に連携しながらお互いの役割を発揮し、地域で参加できる場所づくりをできるようにしていきたい。

令和7年度 事業計画

【 東部地域包括支援センター 】

重点目標

- ① 認知症高齢者やその家族に対しての医療・介護・権利擁護等への対応を図る。
- ② 住民主体の通いの場の支援を第2層生活支援コーディネーターと連携し取り組んでいく。
- ③ 総合事業の利用促進と普及の強化を図る。特に短期集中通所型Cの利用について重点的に取り組む。
- ④ 民生委員や町会等のインフォーマル機関や医療・介護サービス事業者等との地域の見守りと支えあいの地域づくりに取り組んでいく。

【計画の概要】

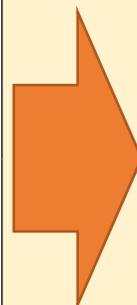
- ① 認知症高齢者の相談を受け、必要な支援をご本人・ご家族と一緒に考え、適切な医療・介護の関係機関に確実に繋げる。
もの忘れ相談定時を年4件・随時を年2件を目標に実施する。認知症初期の方への支援として認知症初期集中支援チームへ年4件実施、チーム員と協力して支援を実施する。認知症についての理解を深め、周知することで認知症の方々が住みやすい地域の見守りや支えあいの地域づくりにつなげるため、区民向けに認知症支援講座を年1回の開催や認知症サポーター養成講座を年2回実施を目標に開催する。権利擁護として、成年後見制度の活用を推進するため、サポートとしま、高齢者福祉課・地域ケアグループ・リーガルサポート豊島支部等と随時連携を図る。
- ② 住民主体の通いの場のサロンへ第2層生活支援コーディネーターと密に連携し、お互いの役割を發揮しながら、サロンの継続や新規立ち上げなどを支援を随時行う。
- ③ 高齢者福祉課・総合事業グループをケアマネジャー勉強会に講師としてお招きし、介護予防のための総合事業の理解を深め利用促進するために実施する。今年実施される短期集中通所型Cの利用について、地域のケアマネジャーをはじめ、日頃より総合相談を行ったり、地域でのサロン活動への参加等を通して、事業説明を随時行うことで利用促進を図り、介護予防に努める。
- ④ 上記①での活動に加えて、緩やかな見守り体制の構築のために、地域の各関係団体や町会長、民生委員の方の集まる場に参加し顔の見える関係づくりを行うとともに包括主催の地区懇談会に参加いただき地域の見守りや課題について共有し連携を深める。高齢者の方が集まる場に出張相談・出前講座を開催や高齢者クラブ、つながるサロンへ参加し、見守り支援の普及啓発や支えあいの場を作るために地域住民の相互交流を促進できるようにしていく。

令和6年度 実績報告

【 中央地域包括支援センター 】

【令和6年度 実績報告】

- ① アウトリーチ連絡会において、民生委員と一緒にサロン活動をマッピングし、位置的な偏りを確認した。
また、「あったら良いと思われる活動」について意見交換を行ったことで、新たなサロン活動が立ち上がった。
- ② 2層 Co. や、としま未来文化財団と協働して、対話型の美術鑑賞会や打楽器を楽しむサークルの立ち上げを支援した。加えて、「アクティブシニアの作品展」と題して、趣味で作った作品や特技を発表する場を提供し、社会参加を促した。
- ③ としまリハビリ通所型サービス及び短期集中通所型サービスの利用は合計 26 件あったが、その内、委託ケースの利用は 2 件にとどまった。一方、ケアマネ地区懇談会では地域の社会資源に関する意見交換をした際に、総合事業に関心を寄せるケアマネが多くみられた。
- ④ グリーフケアを基盤とした多様な担い手の取り組みに関しては、アンケート調査の実施のみで終わった。



【実績への自己評価】

○力を入れた点

- ① 民生委員の欠員が増えている中、効率よく地域の見守り体制を強化するためにはサロン活動が有効であることを、参加者全員が共有できるよう働きかけた。
- ② 美術や音楽が好きな高齢者が楽しめる活動を作り、通いの場の幅を広げていくことを意識した。参加者満足度が高く、継続的に行うことが可能となった。
アクティブシニアの作品展は、更に社会貢献活動への展開を検討している。

○目標までに至らなかった点

- ③ 委託先のケアマネに説明する時間的余裕がなく、包括職員が直接プランを作成したため、委託の総合事業利用件数が伸びなかった。元気はつらつ報告をはじめ、総合事業を利用した効果を紹介する機会を増やしていきたい。
- ④ 業務の時間配分や、協働する仲間づくりが不十分であったため、優先順位が下がってしまった。関係機関と協働できるよう、MCS も活用して取り組んでいきたい。

令和7年度 事業計画

【 中央地域包括支援センター 】

重点目標 助けられる命を取りこぼさない、多世代で支え合うまちづくり

～見守り支援、認知症の備え、介護予防、孤立予防など、多様な担い手と当事者が連携できる地域の拠点～

【計画の概要】

(1) 安否確認時における、救急要請の判断根拠となる情報の収集と発見時死亡ケースの減少を目指す。

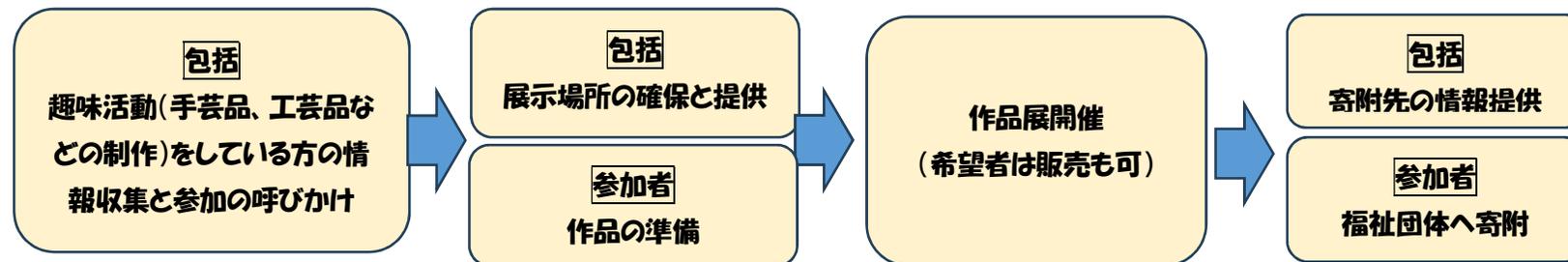
60代・70代の高齢者（特に男性）は、相談歴・受診歴が無い方が多い。更に、サラリーマンをしていた方は、地域とのかかわりに乏しく退職後に趣味活動をしていないと、自覚なく孤立する傾向にある。結果、急な病気やケガで自らSOSが発信できなくなると、発見が遅れて死亡に至る確率が高くなる。これを踏まえて、以下の取り組みを行う。

- ① 終活あんしんセンターと協働して、中高年・前期高齢者向けに「老いの備え」に関する啓発チラシを作成
- ② 上記チラシを使い、自治会の役員会やマンションの管理組合等を対象にした啓発活動の実施
- ③ 多世代を対象にした認知症サポーター養成講座や出張講座の開催

(2) いきいきと暮らす高齢者を増やし、地域共生社会の実現を目指す。

「アクティブシニアの作品展」の出品者は、作品を販売することも可能とする。更に、収益の一部を福祉団体等に寄付できるような仕組みにすることで、制作意欲の向上を図る。

また、作品展の参加者を、障害のある方や子ども・若者に拡大し、多様な担い手による活動の展開を目指す。



令和6年度 実績報告

【 ふくろうの杜地域包括支援センター 】

【令和6年度 実績報告】

- ・複合化した課題を持つケースについて関係機関と連携しながら対応。個別会議は29回、精神疾患で都のアウトリーチ事業を活用したり、都の消費者センターと連携して対応したケースがあった。
- ・出張相談は34回実施。区民ひろば以外でも高齢者クラブや町会でも実施した。区民ひろば祭り、ふくろうフェスでも多世代にむけて包括の広報に取り組んだ。
- ・多職種連携の会では「臨床倫理」をテーマに実施。特養の看取りの事例をもとに、4分割法を活用して理解を深めることができた。
- ・防災の取組として、豊島区、居宅介護支援事業所、ヘルパー事業所、訪問看護事業所と協力して、実際に包括の事業所でシナリオに沿って初動訓練と安否確認訓練を行った。発災直後の動きの確認ができ、さらに必要な備品の確認や安否確認方法など課題をみつけることができた。



【実績への自己評価】

○力を入れた点

- ・相談を受けてすぐに対応するケースではないが、後追いが必要なケースを相談者のニーズに合わせてカテゴリー化し、リストを作成。職員全員がもれなく受けられるように工夫した。
- ・認知症支援講座は都立大塚病院の皮膚排泄ケア認定看護師を講師に迎えて「高齢者の排泄について」をテーマに実施。排泄について介護者だけでなく、地域住民の関心の高さを感じた。

○目標までに至らなかった点

- ・認知症サポーター養成講座の開催をすることができなかった。高齢者クラブや町会に対して、開催を働きかけたが、高齢者にとって、認知症は特別な病気という意識がまだあり、自分たちは関係がないと反応が薄く、開催の難しさを感じた。

令和7年度 事業計画

【 ふくろうの杜地域包括支援センター 】

重点目標

多様な相談に対応し、より充実した相談支援を提供するとともに地域の支え合いを促進する

【計画の概要】

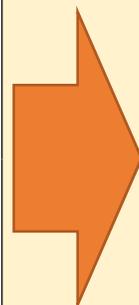
- ・今年度は新入職員が2名入社。(プランナーと見守り担当) 医療職は求人中。新体制で対応するため、職員の研修やサポート体制を整えて全体のスキルアップに力を入れていく。新入職員にはメンター制度を活用。
- ・複合化した課題を持つケースが多くなっており、各関係機関(地域ケアG、保健所、サポートとしま、CSW、障害、生活福祉課等)と連携しながら個別会議を適宜開催。方向性、役割を確認して在宅生活を支援していく。
- ・虐待ケースも対応方法に苦慮するケースが多く、区の虐待マニュアルPTに参加しながら、対応のブラッシュアップをはかっていく。
- ・広報検討会(メンバー:豊島区、第1層SC、第2層SC、CSW、高田介護予防センター、包括)を毎月開催。元気はつらつ報告会や地区懇談会、全体会等を通して、地域の支え合いについて検討していく。
- ・前年度開催できなかった認知症サポーター養成講座を地域住民向けに開催していく。

令和6年度 実績報告

【 豊島区医師会地域包括支援センター 】

【令和6年度 実績報告】

- ・認知症への取組み
普及啓発活動：ジュニアサポーター養成講座、サロンでの認知症講座、区民向けの認知症支援講座を開催した。
- ・介護予防・健康づくりの推進
短期集中型サービスや元気はつらつ訪問の活用
- ・地域ケア会議による地域包括システムの推進
地域ケア推進会議、元気はつらつ報告会を開催し地域課題を検討しながら多職種との連携も深めた。
- ・積極的なアウトリーチ活動や支え合いの仕組み作り
地域住民や関係機関との連携により地域資源を活用した身近な相談場所や気軽に通える場所の提供を継続。
熱中症対策事業及び高齢者実態調査の実施により、見守り体制無しや認知症高齢者など、支援が必要な高齢者を発見し、地域の活動や支援に繋げた。
- ・高齢者虐待防止への取組み
高齢者権利擁護研修を受講&所内での伝達研修を実施。
司法書士をオブザーバーとした所内研修を実施。
措置対応の事例に関して、高齢者福祉課職員が実施した高齢者虐待コアメンバー会議に参加。
相談3事業の活用
- ・高齢者総合相談センターの相談支援の充実
出張相談の実施
いけぶくろ多職種連携の会を開催
つなげるシートの活用により医療機関との連携の効率化を推進した。



【実績への自己評価】

- 力を入れた点
 - ・短期集中訪問型サービスの活用（24件/年）
 - ・地域のサロン（かるがもの会）で認知症講座を実施し、サロンがチームオレンジとして認知症高齢者の受け皿として活動ができるように啓発活動を実施した。
 - ・クールシェアの活動：すずめるマップ作成
 - ・目白地区に地域住民が気軽に立ち寄れる「めじろ de よりみち」を新設
- 目標までに至らなかった点
 - ・認知症初期集中支援チームの活用が少なかった。
 - ・圏域での通所Cの開催が少なく、目標回数に及ばなかった。
 - ・2層コーディネーターの交代により、前年度以上の連携を深めることが出来なかった。

令和7年度 事業計画

【 豊島区医師会地域包括支援センター 】

重点目標

誰もが自分らしさを維持しながら安心して住み続けられるような地域づくりの支援を行っていく。

【計画の概要】

○生活支援の充実

- ・ ささえあいの仕組みづくり：地域資源の開発や充実を図る
要見守り高齢者に対する多様な主体による見守り体制の構築や相談の場の提供を継続していく。
- ・ 見守り支援事業担当者による活動
熱中症対策事業や見守り体制のない人等への個別訪問を継続して行う。

○介護予防・健康づくりの推進

介護予防の視点を重視し、生活機能改善に繋がるように適切な訪問型・通所型サービスの利用を推進する。

○高齢者総合相談センターの機能強化

- ・ 地域ケア会議による地域包括システムの推進
多様な主体と協働して地域ケア会議を開催し、地域課題に取り組む。

○自分らしく安心して暮らせる地域づくり

- ・ 高齢者虐待問題への取り組み
虐待通報が入った場合は、区と密に連携を取りながら速やかに対応する体制を継続していく。
高齢者虐待マニュアルの作成を虐待対応マニュアルPTの参加メンバーとして進めていく。

令和6年度 実績報告

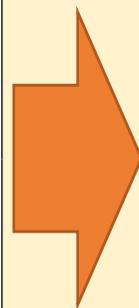
【 いけよんの郷地域包括支援センター 】

【令和6年度 実績報告】

・いけよん圏域における多職種連携の推進
地域包括ケアシステムの構築を推進させるため、いけよん地区の多職種連携活動体である「いけよんプロジェクト」の事務局運営を担った。毎月のコアミーティングの開催や研修会の企画運営、地域行事の参加など、会員だけでなく、地域の多世代に向けた取り組みを行えた。

・医療、ケア、介護サービス、介護者への支援
増加傾向にある地域の認知症に関する相談に対し早期対応が必要と考え、区の「もの忘れ相談」や「認知症初期集中支援事業」の活用を計画したが、活用件数が目標値に達しなかった。

・普及啓発、本人発信支援
認知症高齢者が顕在化している状況があり、地域住民に認知症に関する普及啓発を行うことで、認知症になっても住みやすい地域づくりが推進できるよう、認知症サポーター養成講座を3回開催した。そのうち子供向けの内容を2回実施、多世代に向けて講座を開催した。



【実績への自己評価】

○力を入れた点
いけよんプロジェクト事務局として、参加するメンバーの自主的に取り組みが行える後押しを行い、運営を担った。
具体的なプロジェクトの活動として、事業所や住民向けの研修や講演会の開催や中学生向けに特別授業の開催、地域連携としては施設入所者の盆踊り大会参加の補助や救護所の開設、地域お祭りへの出店や福祉・医療相談とニーズ把握のためのアンケートの実施、圏域のオリジナルマップの更新や周知等を実施した。令和7年度は上記活動の他に、中学生と高齢者の交流会等の実施に向け検討を始めている。

○目標までに至らなかった点
認知症関連
「もの忘れ相談」3件、「認知症初期集中支援事業」1件の実績だった。相談や関わり開始時の段階で、早期に医療につなげる必要のあるケースが4件あり対応した。令和7年度は早期発見や早期対応ができるよう、医療職の同行訪問や相談時同席等を積極的に行うとともに、多世代の地域住民に向けた啓発活動を継続したい。

令和7年度 事業計画

【 いけよんの郷地域包括支援センター 】

重点目標

○地域包括ケアシステムの実現に向けて、専門職個々のスキルの強化、地域活動の支援や多職種連携を図り、多世代に対して必要な情報の発信

○高齢者の介護予防と自立支援の推進を意識し、地域住民やケアマネジャーへの介護予防・日常生活支援総合事業普及啓発のための研修会等の実施を継続

【計画の概要】

【複合的課題など複雑化するケースが増加しており、課題解決能力の向上やチームアプローチの強化が必要、また早い段階で相談いただけるように広く高齢者総合相談センターの周知が必要】

個別ケースの対応を多職種で検討し、終結まで進捗状況の確認を行う。また、職員個々の専門性の向上や専門外知識の向上を図るため、外部研修へ積極的に参加すると共に、包括内で定期的な研修を実施する。周知活動に関しては、出前相談や講座開催等の機会を活用するとともに、包括通信を作成し配布していく。令和6年度に十分に活用できなかった認知症関連の事業の周知も併せて行っていく。

【10月より総合事業の通所型サービスの運用が変更となるため周知が必要、また、総合事業の活用が十分でない】

総合事業の基本方針を含め事業内容の周知を図るため、地域のケアマネジャー対象の研修会や担当者会議等の機会を活用していく。短期集中通所型サービスに関してはMCS等も活用し、適切な時期に周知を図る。通所型サービスの利用希望者への聞き取りをしっかりと行い、適切なサービスにつなげていく。

【様々な生活課題を持った高齢者に対し課題の困難化を防ぐ必要がある】

圏域全体の見守りネットワーク推進が図れるよう、町内会やマンション管理人、金融機関、タクシー会社等へ見守り協力依頼を続けると共に、情報共有の機会を持っていく。CSW、第2層生活支援コーディネーターと定期的な情報共有の場を持ち、地域課題に対する情報を共有し対応の検討を継続していく、今年度は引きこもりがちな男性を対象にした歴史講座の開催を予定している。包括内でも見守り対象者の情報を共有し、多職種で個別ケースに対応していく。

令和6年度 実績報告

【 アトリエ村地域包括支援センター 】

【令和6年度 実績報告】

- ・高齢者実態調査及び熱中症対策事業では、約 1,100 件を対象に取り組みを行い、新たな対象者及び既存対象者の確認をすることができた。
- ・地域のケアマネジャー支援として、生活保護制度をテーマに懇談会を実施し、24名の参加。また、認知症についての理解を深めるための研修会を行い18名の参加。
- ・特殊詐欺が急増しているため、目白警察と連携し地域の民生委員、町会長、介護事業所を対象に寸劇を取り入れた対策講習会を開催した。参加者40名には、高齢者が被害に合わないよう注意喚起をお願いした。現状では、被害にあった高齢者の報告は受けていないため一定の効果が出ているのではないかと考えているが、被害状況や手口などを考えると継続して周知していく必要性を感じた。



【実績への自己評価】

○力を入れた点

高齢者総合相談センターの周知や災害時の備え、詐欺被害状況及び対策を周知するため、地区懇談会や区民ひろば等でおこなわれている食堂等に出向き包括のチラシや災害時の持ち物、火災の注意喚起のチラシの配布を行うことができた。

○目標までに至らなかった点

全体的に目標達成ができたと考えているが、地域住民の方々に対して、高齢者総合相談センターの案内や特殊詐欺や防災に関する周知がもう少しできれば良かったと考えている。

令和7年度 事業計画

【 アトリエ村地域包括支援センター 】

重点目標

住み慣れた地域で自立した日常生活が出来るよう支援していく

【計画の概要】

- ・今年度、見守り支援事業では民生委員の改選年度であるため、交代や欠員などが想定されるが事業に支障がないよう、日ごろから関係機関と情報の共有や連携を強化していく。
- ・今年度より圏域内の区民ひろば長崎が改修工事を終了し、短期集中通所サービスCが3か所となった。重度化を防止するため対象となる利用者には積極的に参加を促していきたい。
- ・地域のケアマネジャー育成支援として、地区懇談会にて「精神障害者制度」、研修会にて「ヤングケアラー」についての勉強会を開催予定。
- ・地域高齢者の抱えている課題や問題点を解決ができるような内容を考え地区懇談会を開催する。

令和6年度 実績報告

【 西部地域包括支援センター 】

【令和6年度 実績報告】

○普及啓発・本人発信支援

・認知症の普及啓発として、「認知症サポーター養成講座」を5回開催した。特に学童向けの開催では、読み聞かせやクイズを取り入れたことで子ども達が集中して話を聞き、理解しようと積極的に質問をしてくれた。

・ひろば千早にて定期的に本人ミーティングを開催した。担当職員を固定し、定期開催したことで、参加者も定着した。もの忘れに関する生活の工夫などについて活発な話し合いが行われ、参加者がそれを生活に活かしながら元気に1か月を過ごし、再び顔を合わせることを楽しみにしている様子が伺える。

・西側地域にて「認知症の人と家族の一体的支援プログラム」を開催した。西部圏域からは本人のみの参加となったが、その後も開催場所となった小学校と繋がりを持ち、定期的に利用されており、本人の居場所となっていることを把握している。

○多職種連携の取り組み

・西部多職種連携の会では「災害時の対応」をテーマに開催し、安否確認について行政の動き方を参加者で共有した。圏域内の多職種が共通認識を持てるよう対面にて開催し、グループワークで理解を深めた。

【実績への自己評価】

○力を入れた点

・「防災」について

地区懇談会では「地域の防災」について考え、多職種連携の会では「災害時の対応」について情報共有した。また、圏域内の居宅介護支援事業所にご協力いただき、包括としての初動訓練を実施した。

・出張講座・出張相談（実績33回）

福祉住宅（2か所）にて定期的なサロン開催、区民ひろばや町会に向けて「見守り支援講座」等を実施した。

○目標までに至らなかった点

・もの忘れ相談（回数）

相談のタイミングに合わせて他圏域の相談に繋がったこともあり、西部の定例会（10月、3月）は3回となった。

・相談3事業（回数）

行政などの関係機関と共に個別支援会議（身障センター1件）、相談事業（保健所2件）、アウトリーチ事業（東京都健康長寿医療センター1件）を活用することもあり、相談3事業については7回となった。

令和7年度 事業計画

【 西部地域包括支援センター 】

重点目標

○認知症になってもその人らしく生活できるよう、各職種の対応力、アセスメント力を強化し、関係機関等と協働する

○地域住民が自らの健康を維持し、積極的にフレイル予防などに取り組めるよう、インフォーマルサービスも含めた環境づくり

○個人情報保護に関する取り組みの継続と業務の効率化を図る

【計画の概要】

○自分らしく安心して暮らせる地域づくり

・認知症についての理解者を増やすため、多世代に向けて認知症サポーター養成講座を開催する。地域住民向けでは2か所のひろば、また学童向けには1か所のスキップにて開催する。

・多世代や重層的支援が必要なケースに対し、個別地域ケア会議、相談3事業などを活用し、早期に関係機関と連携を図る。

○生活支援の充実

・熱中症対策事業やアウトリーチ訪問を通し、スムーズに必要な支援に繋がるよう、訪問などにより関係性を築く。また、地域住民などに向けて「見守り支援講座」を開催し、町会等と見守りのネットワークの拡大を図る。

・社会資源一覧（西部版 Ayamu）を活用し、居場所やサービスに繋げる。また、新たな居場所（通いの場）となるよう、高齢者の生活支援推進員と協働する。